

議題（1）アンケート調査結果の報告

①調査の目的

- ・計画改定の検討に、市民等の意見を広く取り入れるためにアンケート調査を実施。
- ・毎年実施している「さいたま市民意識調査」も活用し、計画策定のための基礎資料とする。

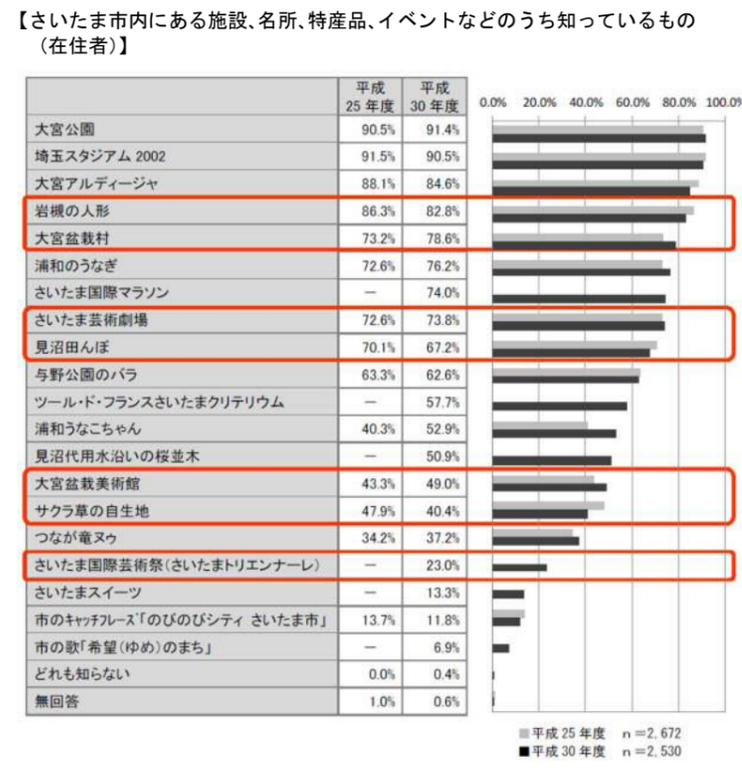
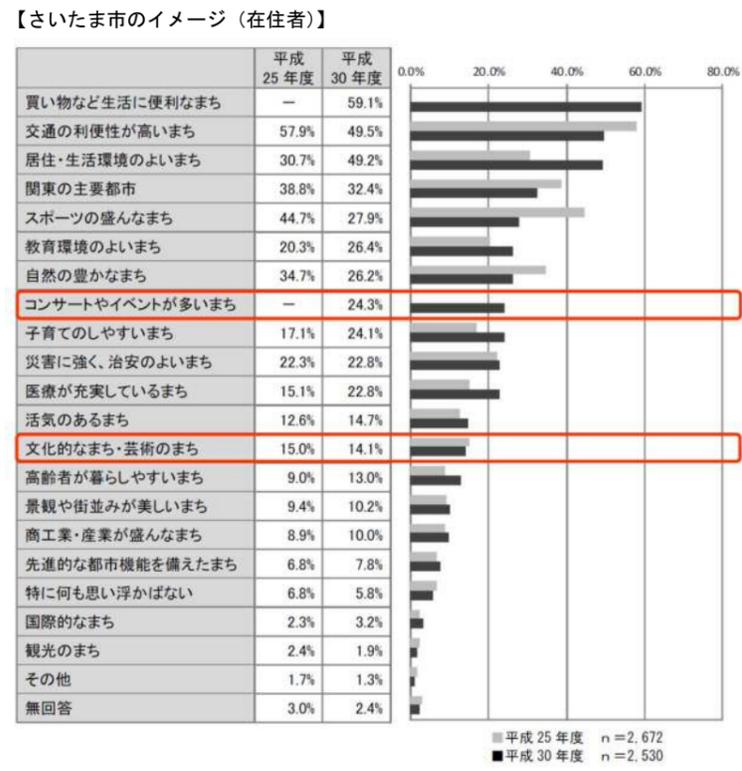
②各調査の概要

■調査概要一覧

調査名		調査概要
A. さいたま市民意識調査	A-1. 在住者	①調査対象： 市内在住の満18歳以上の男女5,000人 ②抽出方法： 住民基本台帳に基づく層化多段無作為抽出 ③調査方法： 郵送配布・郵送回収法 ④調査期間： 平成30年6月1日～6月18日 ⑤有効回収数： 2,530ss（回収率50.6%）
	A-2. 在勤者	①調査対象： 市内に勤務する満18歳以上の男女2,000人 ②抽出方法： 無作為抽出した事業所に勤務する個人へ依頼 ③調査方法： 郵送配布・郵送回収法 ④調査期間： 平成30年6月1日～6月18日 ⑤有効回収数： 672ss（回収率33.6%）
B. 文化芸術活動団体調査		①調査対象： a. 文化協会加盟団体(34団体) b. 文化施設(9施設※)利用団体 ※プラザノース、市民会館おおみや、氷川の杜文化館、プラザウエスト、恭慶館、市民会館うらわ、文化センター、プラザイースト、市民会館いわつき ②調査方法： a. 郵送配布・郵送回収法 b. 直接配布・直接回収法 ③調査期間： 令和元年8月末～9月末 ④有効回収数： 175ss
C. 文化芸術に関するサポーター調査		①調査対象： 市内の文化芸術活動に関わるサポーター※ ※さいたま国際芸術祭サポーター、SaCLa サポーターズ、大宮盆栽美術館ボランティア ②調査方法： 直接配布・直接回収法、郵送配布・郵送回収法、Eメールによる調査 ③調査実施： 令和元年8月24日～9月7日 ④有効回収数： 95ss
D. 市民文化芸術活動状況調査		①調査対象： さいたま市在住のネットリサーチモニター ②調査方法： ネットリサーチサービスを活用したWEBアンケート ③調査実施： 令和元年8月 ④有効回収数： 312ss

③調査結果の概要

A. さいたま市民意識調査			
■調査目的	広聴事業の一環として、施策に対する市民の意向等を把握し、今後の市政運営の参考とする		
■調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在住者：市内在住の満 18 歳以上の男女 5,000 人 ・ 在勤者：市内に勤務する満 18 歳以上の男女 2,000 人 	■調査期間	平成 30 年 6 月 1 日～6 月 18 日
■調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在住者：住民基本台帳に基づく層化多段無作為抽出、郵送配布・郵送回収法 ・ 在勤者：無作為抽出した事業所に勤務する個人へ依頼、郵送配布・郵送回収法 	■調査結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在住者：2,530ss (回収率 50.6%) ・ 在勤者：672ss (回収率 33.6%)
■調査結果概要	<p>※文化芸術に関わる項目を抜粋</p> <p>1. さいたま市のイメージ</p> <p>【在住者】21 の選択肢のうち文化芸術都市に関わる選択肢としては、「コンサートやイベントが多いまち」(24.3%・8位)、「文化的なまち・芸術のまち」(14.1%・13位)。平成 25 年度と比べ「文化的なまち・芸術のまち」とイメージする市内在住者の割合は 0.9 ポイント減少。なお、「コンサートやイベントが多いまち」は、平成 25 年度調査では選択肢として設定されていなかった。</p> <p>【在勤者】21 の選択肢のうち文化芸術都市に関わる選択肢としては、「コンサートやイベントが多いまち」(40.6%・4位)、「文化的なまち・芸術のまち」(13.7%・12位)。平成 25 年度と比べ「文化的なまち・芸術のまち」とイメージする市内在勤者の割合は 0.2 ポイント増加。なお、「コンサートやイベントが多いまち」は、平成 25 年度調査では選択肢として設定されていなかった。</p> <p>2. さいたま市の発展の方向性</p> <p>【在住者】21 の選択肢のうち文化芸術都市に関わる選択肢としては、「文化的なまち・芸術のまち」(7.9%・14位)、「コンサートやイベントが多いまち」(5.5%・16位)といずれも低い。平成 25 年度と比べ「文化的なまち・芸術のまち」への発展を望む市内在住者の割合は 2.8 ポイント増加。なお、「コンサートやイベントが多いまち」は、平成 25 年度調査では選択肢として設定されていなかった。</p> <p>【在勤者】21 の選択肢のうち、文化芸術都市に関わる選択肢としては、「文化的なまち・芸術のまち」(7.9%・16位)、「コンサートやイベントが多いまち」(4.9%・19位)といずれも低い。平成 25 年度と比べ「文化的なまち・芸術のまち」への発展を望む市内在勤者の割合は 3.6 ポイント増加。なお、「コンサートやイベントが多いまち」は、平成 25 年度調査では選択肢として設定されていなかった。</p>		
	<p>3. さいたま市内にある施設、名所、特産品、イベントなどのうち知っているもの</p> <p>【在住者】21 の選択肢のうち、さいたま市の魅力的な文化芸術資源(盆栽・漫画・人形・鉄道)に関わるもので特に認知率が高いのは、「岩槻の人形・4位」(82.8%)、「大宮盆栽村・5位」(78.6%)。認知率が 50%以下なのは、「大宮盆栽美術館」(49.0%)、「サクラ草の自生地」(40.4%)、「さいたま国際芸術祭」(23.0%)。平成 25 年度と比べ特に増加したのは、「大宮盆栽村」(5.4 ポイント増)と、「大宮盆栽美術館」(5.7 ポイント増)。</p> <p>【在勤者】21 の選択肢のうち、さいたま市の魅力的な文化芸術資源(盆栽・漫画・人形・鉄道)に関わるもので特に認知率が高いのは、「岩槻の人形」(74.4%・5位)、「大宮盆栽村」(64.3%・6位)。認知率が 50%以下なのは、「見沼田んぼ」(47.3%)、「大宮盆栽美術館」(36.6%)、「サクラ草の自生地」(19.9%)、「さいたま国際芸術祭」(15.5%)。平成 25 年度と比べ特に増加したのは、「大宮盆栽村」(14.3 ポイント増)、「大宮盆栽美術館」(15.1 ポイント増)。</p>		
	<p>4. 施策や事業の満足度</p> <p>【在住者】30 ある選択肢のうち、文化芸術都市創造に関わる選択肢としては、「地域文化の保全／文化芸術活動の振興／活動環境の充実」(満足計 12.0%、普通 39.7%、不満計 6.5%、わからない 35.5%、無回答 6.4%)、「生涯学習の振興／学習環境の充実」(満足計 9.7%、普通 38.0%、不満計 7.8%、わからない 38.5%、無回答 5.9%)。いずれの設問でも「わからない」が多く、文化芸術施策に対する十分な理解が得られていない可能性がある。</p> <p>5. 今後力を入れて欲しい施策</p> <p>【在住者】30 の選択肢のうち、文化芸術都市に関わる「生涯学習の振興／学習環境の充実」(8.3%・21位)、「地域文化の保全／文化芸術活動の振興／活動環境の充実」(4.4%・28位)。優先順位は非常に低い。</p>		



B. 文化芸術活動団体調査

■調査目的	さいたま市で活動する文化芸術活動団体の現状とニーズを把握	
■調査対象	○さいたま市文化協会加盟団体	○文化施設（9施設）利用団体
■調査手法	郵送配布・郵送回収	文化施設の窓口で直接配布・直接回収
■調査期間	令和元年8月末～9月末	
■調査結果	有効回収数：175ss（回収率52.4%）	

■調査結果概要	<p>1. 現状把握のための調査項目</p> <p>①主な活動内容は、「音楽」(21.7%)が最も多く、次いで「茶道・華道・書道」(14.9%)。</p> <p>②会員数は、「10～19人」(29.7%)が最も多く、次いで「10人未満」(24.6%)。</p> <p>③年齢層は、「60歳代」(31.4%)が最も多く、次いで「70歳代」(23.4%)。60歳以上が6割近くを占める。前回調査と比べ「70歳代」「80歳以上」が増え、高齢化している。</p>	<p>【Q3 年齢層】</p>
	<p>④主な活動地域は、「浦和区」(15.4%)、「岩槻区」(14.9%)、「大宮区」(14.3%)、「北区」(13.7%)が比較的多く、「西区」(1.7%)、「見沼区」(1.7%)、「南区」(3.4%)では特に低い。</p> <p>⑤主な活動場所は、「市民会館などの文化施設」(41.7%)、次いで「プラザイースト、プラザウエスト、プラザノース」(40.0%)、「公民館」(31.4%)。</p>	
	<p>2. ニーズ把握のための調査項目</p> <p>①活動する上で困っていることは「会員・後継者の減少」(39.2%)が最も多く、次いで「練習や活動を行う場所の不足」(35.7%)。いずれも前回調査と比べ増加している。</p>	<p>【Q6 活動する上で困っていること】</p>
	<p>②さいたま市を代表する文化芸術として広く発信すべきものは、「盆栽」(59.9%)が最も多く、次いで「鉄道」(38.9%)、「音楽」(29.9%)、「人形」(25.7%)、「芸能」(23.5%)。「盆栽」「人形」は前回調査と比べ増加している。</p> <p>③文化芸術を活かしたまちづくりを行うために必要な取組は、「文化施設など活動の場の充実」(46.5%)が最も多く、前回調査と比べ6.1ポイント増加している。次いで「観覧・鑑賞、講座などへの参加機会の充実」(43.6%)。</p>	

C. 文化芸術に関するサポーター調査

■調査目的	文化芸術に関するサポーター等に対して、主体的な活動を推進する上で求められる条件や要望を把握
■調査対象	市内の文化芸術活動に関わるサポーター (さいたま国際芸術祭サポーター、SaCLa サポーターズ、大宮盆栽美術館ボランティア)
■調査手法	各団体の会合やイベント等の際に、直接配布・直接回収または郵送回収
■調査期間	令和元年8月24日～9月7日
■調査結果	有効回収数：95ss（回収率：65.4%）

■調査結果概要	<p>1. 回答者属性</p> <p>①回答者の年齢層は「62歳以上の女性」(39.8%)が最も多く、「62歳以上の男性」(14.0%)も含めると、「62歳以上」が半数を超える。居住地は「浦和区」(17.0%)が最も多く、次いで「南区」(16.0%)、「北区」(13.8%)。興味関心のある文化芸術分野は、「音楽」(72.0%)が最も多く、次いで「美術」(51.6%)。</p>	
	<p>2. サポーターとしての活動状況</p> <p>①サポーターとしての活動内容は、「イベントでの運営補助」(51.7%)が最も多く、次いで「文化施設での運営補助」(39.1%)。</p> <p>②活動する上で困っていることは、【Q2 活動する上で困っていること】</p>	<p>【Q2 活動する上で困っていること】</p>
	<p>③今後取り組みたい活動は、「展覧会やワークショップ、講演会などの文化芸術イベントの企画への参画」(81.8%)が特に多い。そのために必要な支援は、「サポーターが参画できるメニューの拡大」(64.8%)が最も多く、次いで「サポーターとしての学習機会の提供」(63.6%)。</p>	<p>【Q4 今後取り組みたい活動に必要な支援】</p>
	<p>3. さいたま市における文化芸術都市創造に向けて必要な取組</p> <p>①さいたま市を代表する文化芸術として広く発信すべきものは、「盆栽」(59.8%)が最も多く、次いで「鉄道文化」(47.8%)、「音楽」(43.5%)、「演劇」「郷土芸能」(いずれも30.4%)。</p> <p>②さいたま市が「文化的なまち・芸術のまち」となるために必要な取組は、「文化芸術に触れる機会の提供」(87.1%)が特に多く、次いで「文化芸術活動を発表する場の充実」(58.1%)、「文化芸術活動に関する創作の場・練習の場の拡充」(51.6%)。</p>	

D. 市民文化芸術活動状況調査

■調査目的	現行計画策定時に実施した調査と同様の視点で調査を実施し、市民の文化芸術活動への参加状況やニーズを抽出		
■調査対象	さいたま市民のネットリサーチモニター	■調査期間	令和元年8月
■調査手法	ネットリサーチサービスを活用したWEBアンケート	■調査結果	ネットリサーチモニターへの無作為配信により312ssを回収

1. 現状把握のための調査項目

- ①市民による市内で行われる文化芸術活動への参加状況は、【A：月1回以上活動するもの】【B：年に数回活動するもの】とも、「あてはまるものはない」(A：86.5%/B：59.0%)が最も多い。「あてはまるものはない」が特に多い年齢層は、「22～31歳」(A：90.4%/B：65.4%)、「32～41歳」(A：90.4%/B：61.5%)。参加している割合が高い活動は、「博物館や美術館、展覧会などの観覧」(A：4.8%/B：15.4%)、「コンサートや公演などの鑑賞」(A：3.8%/B：17.9%)、「祭やイベントなどの見学」(A：6.1%/B：21.2%)。
- ②市民による市外で行われる文化芸術活動への参加状況は、【A：月1回以上活動するもの】【B：年に数回活動するもの】とも、「あてはまるものはない」(A：87.8%/B：58.3%)が最も多い。「あてはまるものはない」が特に多い年齢層は、「42～51歳」(A：94.2%/B：63.5%)、「62～69歳」(A：92.3%/B：51.9%)。参加している割合が高い活動は、「博物館や美術館、展覧会などの観覧」(A：3.8%/B：18.6%)、「コンサートや公演などの鑑賞」(A：6.7%/B：25.0%)、「祭やイベントなどの見学」(A：3.5%/B：15.7%)。

②さいたま市を代表する文化芸術として広く発信すべきものは、「鉄道」(61.5%)が最も多く、次いで「盆栽」(58.3%)、「漫画」(20.2%)、「音楽」(17.0%)、「人形」(14.1%)。「盆栽」は前回調査と比べ9.6ポイント増加。文化芸術資源毎に、年齢層や居住区別でばらつきが見られる。

- ・「盆栽」は、「52～61歳」(73.1%)、「北区」(82.4%)で特に多く、「18～21歳」(48.1%)、「22～31歳」(40.4%)、「桜区」(36.8%)で特に少ない。
- ・「鉄道」は、「32～41歳」(75.0%)、「大宮区」(80.6%)で特に多く、「緑区」(35.7%)、「桜区」(42.1%)で特に少ない。
- ・「漫画」は、「18～21歳」(28.8%)、「緑区」(35.7%)、「岩槻区」(33.3%)で特に多く、「浦和区」(10.5%)、「32～41歳」「62～69歳」(いずれも13.5%)で特に少ない。
- ・「人形」は、「岩槻区」(60.0%)で特に多く、「浦和区」(5.3%)、「南区」(7.3%)、「北区」(8.8%)で特に少ない。

【Q4 さいたま市を代表する文化芸術として、広く発信すべきもの】

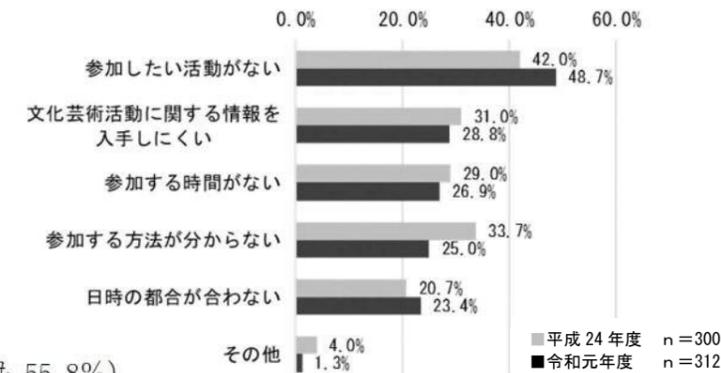
	n値	盆栽	漫画	人形	鉄道	文学	芸能	音楽	茶道・華道・書道	美術・写真	囲碁・将棋	演劇・舞踊	その他
全体	312	58.3%	20.2%	14.1%	61.5%	4.2%	13.8%	17.0%	2.2%	10.6%	0.3%	10.6%	3.5%
18～21歳	52	48.1%	28.8%	15.4%	53.8%	5.8%	7.7%	28.8%	5.8%	5.8%	1.9%	3.8%	1.9%
22～31歳	52	40.4%	25.0%	9.6%	42.3%	7.7%	23.1%	21.2%	1.9%	17.3%	0.0%	13.5%	7.7%
32～41歳	52	53.8%	13.5%	15.4%	75.0%	3.8%	11.5%	13.5%	0.0%	17.3%	0.0%	5.8%	3.8%
42～51歳	52	67.3%	25.0%	11.5%	59.6%	5.8%	9.6%	13.5%	1.9%	11.5%	0.0%	5.8%	1.9%
52～61歳	52	73.1%	15.4%	9.6%	69.2%	1.9%	7.7%	11.5%	0.0%	7.7%	0.0%	13.5%	3.8%
62～69歳	52	67.3%	13.5%	23.1%	69.2%	0.0%	23.1%	13.5%	3.8%	3.8%	0.0%	21.2%	1.9%
西区	18	55.6%	16.7%	11.1%	55.6%	11.1%	5.6%	22.2%	0.0%	27.8%	0.0%	0.0%	0.0%
北区	34	82.4%	11.8%	8.8%	70.6%	5.9%	5.9%	26.5%	2.9%	5.9%	0.0%	8.8%	2.9%
大宮区	36	61.1%	16.7%	13.9%	80.6%	0.0%	11.1%	13.9%	0.0%	5.6%	0.0%	5.6%	2.8%
見沼区	40	67.5%	22.5%	27.5%	72.5%	0.0%	10.0%	15.0%	5.0%	5.0%	0.0%	7.5%	0.0%
中央区	24	50.0%	20.8%	12.5%	58.3%	4.2%	16.7%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	20.8%	0.0%
桜区	19	36.8%	15.8%	10.5%	42.1%	5.3%	15.8%	10.5%	5.3%	10.5%	0.0%	5.3%	15.8%
浦和区	57	54.4%	10.5%	5.3%	64.9%	1.8%	14.0%	19.3%	0.0%	15.8%	0.0%	15.8%	7.0%
南区	41	51.2%	29.3%	7.3%	56.1%	7.3%	17.1%	14.6%	0.0%	12.2%	2.4%	12.2%	2.4%
緑区	28	50.0%	35.7%	10.7%	35.7%	10.7%	21.4%	21.4%	7.1%	7.1%	0.0%	14.3%	3.6%
岩槻区	15	66.7%	33.3%	60.0%	53.3%	0.0%	26.7%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%



2. ニーズ把握のための調査項目

- ①さいたま市内で行われる文化芸術活動に参加する場合の課題は、「参加したい活動がない」(48.7%)が最も多く、前回調査と比べ6.7ポイント増加。次いで多いのは、「文化芸術活動に関する情報を入手しにくい」(28.8%)。「参加する時間がない」(29.0%)、「参加する方法が分からない」(33.7%)、「日時の都合が合わない」(23.4%)。
- 年齢層別に見ると、「参加したい活動がない」が特に多いのは、「18～21歳」「22～31歳」(いずれも55.8%)。

【Q3 市内で行われる文化芸術活動に参加する場合の課題】

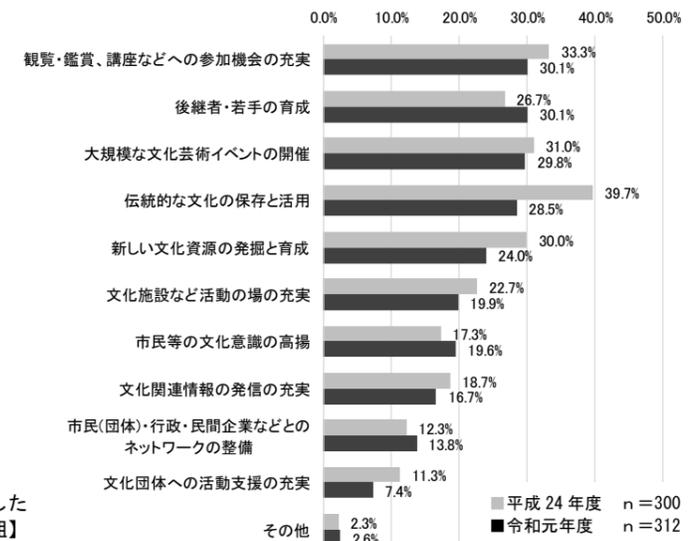


「文化芸術活動に関する情報を入手しにくい」が特に多いのは、「32～41歳」(36.5%)、「18～21歳」(34.6%)。また、「日時の都合が合わない」は、「42～51歳」(36.5%)で特に多い。

【Q3 市内で行われる文化芸術活動に参加する場合の課題】

	n値	参加したい活動がない	文化芸術活動に関する情報を入手しにくい	参加する方法が分からない	参加する時間がない	日時の都合が合わない	その他
全体	312	48.7%	28.8%	25.0%	26.9%	23.4%	1.3%
男性	156	50.6%	28.8%	26.3%	26.3%	18.6%	2.6%
女性	156	46.8%	28.8%	23.7%	27.6%	28.2%	0.0%
18-21歳	52	55.8%	34.6%	25.0%	28.8%	19.2%	0.0%
22-31歳	52	55.8%	19.2%	25.0%	23.1%	17.3%	0.0%
32-41歳	52	40.4%	36.5%	28.8%	36.5%	25.0%	0.0%
42-51歳	52	46.2%	25.0%	32.7%	25.0%	36.5%	3.8%
52-61歳	52	50.0%	26.9%	21.2%	26.9%	21.2%	1.9%
62歳以上	52	44.2%	30.8%	17.3%	21.2%	21.2%	1.9%

- ③文化芸術を活かしたまちづくりを行うために必要な取組は、「観覧・鑑賞、講座などへの参加機会の充実」「後継者・若手の育成」(いずれも30.1%)、「大規模な文化芸術イベントの開催」(29.8%)が多い。



【Q5 文化芸術を活かしたまちづくりに必要な取組】